

文教厚生委員会 行政視察報告書

平成30年11月16日

狭山市議会議長

新 良 守 克 様

文教厚生委員会

委員長 金子 広 和

当委員会は、下記のとおり、新潟県見附市及び同県十日町市を視察して参りましたので、その概要について報告いたします。

記

日 程 平成30年10月9日（火）・10日（水）

- 視察事項 1. 新潟県見附市：スマート ウェルネス みつけ について
2. 新潟県十日町市：複合化施設・十日町小学校 について

参加者 金子 広 和 矢 馳 一 郎 内 藤 光 雄
笹 本 英 輔 齋 藤 誠 大 沢 えみ子
新 良 守 克

同行者 伊 藤 秀 一 学校教育参事

随 行 田 中 智 子

【新潟県 見附市】

[市制施行] 昭和 29 年 3 月 31 日

[人 口] 40,635 人 (平成 30 年 8 月 1 日現在)

[面 積] 77.91 平方キロメートル

[概 要]

南北に長い新潟県の「どまんなか(重心地)」に位置した人口約 4 万人のまち。市内には信濃川水系の刈谷田川が流れ、豊かな水と清涼な空気に恵まれた県内でも有数の田園地帯を保有している。

肥沃な土地による農業と繊維産業を基幹産業として発展を遂げ、ニット製品の主産地として知られてきた。近年では、国道・高速道路などの交通網に恵まれた立地条件から、県営中部産業団地への企業進出により、さまざまな業種の企業が市内に進出し、繊維産業だけに頼ってきた産業構造から、多種多様な業種で支えるバランスのとれた産業構造へと様変わりしている。中でもプラスチック、生産用機械、金属製品などが躍進。製造品出荷額もここ 10 年で約 27%増加している。

【調査項目】

1. スマート ウェルネス みつけ について

- (1) スマート ウェルネス みつけ の概要
- (2) 「見附市健幸づくり推進計画」策定に至る経緯
- (3) “健幸”を実感できるまちづくりに挑戦してきた現在までの効果
- (4) 管理・運営の体制
- (5) 事業を進めるにあたり苦労した点
- (6) 事業への市民の反応
- (7) 今後の展望と課題

【視察内容】

1. 小泉見附市議会議長より歓迎のご挨拶をいただき、金子委員長及び新良議長より視察受け入れの謝意をお伝えした。その後、関係職員より説明を受け、近接する“市民交流センター「ネーブルみつけ」(まちの駅・健康の駅・赤ちゃんの駅)”を視察した。

(1) スマート ウェルネス みつけ の概要

体の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れる状態を“健幸(けんこう)=ウェルネス”と呼び、これをまちづくりの中核に据えた取り組みが、「スマート ウェルネス みつけ」の概要である。



(2) 「見附市健幸づくり推進計画」策定に至る経緯

見附市では、平成 26 年 3 月に「見附市健幸づくり推進計画」を策定した。この計画は、「日本一健康なまち」を目指し、平成 16 年 3 月に策定した「いきいき健康づくり計画」を包含し、これまでの健康施策「食生活」「運動」「生きがい」「健(検)診」の 4 本柱を中心に、まちづくりの要素を加えた「スマート ウェルネス みつけ」を総合的に進めるための計画である。

(3) “健幸” を実感できるまちづくりに挑戦してきた現在までの効果

- ①健康運動教室の実施により、体力年齢の約 15 歳の若返りと年間一人当たりの医療費の約 10 万円の抑制効果を実証
- ②全国平均、県平均よりも低い介護認定率を維持
(平成 22 年～平成 24 年は 3 年連続県内 1 位、平成 29 年は 3 位)
- ③小学 4 年生と中学 1 年生を対象に、血圧・血中脂質・肥満度の検査を実施。全国的な小児の血圧基準となっている「見附スタディ」を確立。



(4) 管理・運営の体制

- ①健康になれるまちとして
 - ・景観、公園、自転車通行帯等、歩きたくなる道路等の整備
 - ・コミュニティバス、乗合タクシー、レンタサイクル等、地域公共交通体系の整備
- ②地域が元気なまちとして
 - ・地消地産の取り組み、販路の開拓、まちなか賑わい等、経済活動の創出
 - ・概ね小学校単位の全 11 地区で地域コミュニティ組織の再編
- ③環境に優しいまちとして
 - ・ごみの減量化、廃食用油の回収、乾燥生ごみを花苗と交換、全小中学校で太陽光発電装置の設置等を実現
- ④健幸を理解し行動として
 - ・平成 13 年度から医師会と共催し、市内の小学 6 年生と中学 1 年生全員を対象に喫煙防止講演会を実施



(成人式でアンケートを実施しており、平成 28 年度では『講演会を憶えているか?⇒憶えている 69% タバコを吸ったことがあるか?⇒現在吸っている 9% [平成 25 年度国民生活基礎調査・喫煙率 国 21.6%、県 21.7%]』だったことから結果にもつながっている。)

(5) 事業を進めるにあたり苦勞した点など

- ①健康運動教室で実施した参加者数が約 1,400 人で頭打ちに
- ②全 11 地区への地域コミュニティ組織の設立
- ③過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備
- ④市民の健幸づくりを啓発・サポートする人材の育成
- ⑤健幸都市実現を下支えする市職員のスキルアップと行動変容

(6) 事業への市民の反応

人および都市の「健幸」を達成するために必要かつ正確な情報を、健康づくり無関心層を含めた多くの地域住民に「心に届く情報」として伝え拡散する役割(伝道師)を担う“健幸アンバサダー”を養成するなどしており、取組の推進を図っている。

(平成 28・29・30 年の 3 年間に、養成講座を 476 名が受講した)

(7) 今後の展望と課題

- ①国の全国初の社会実験『健幸ポイントプログラム（日々の歩行や運動など健康づくりをすることでポイントが貯まり、そのポイントは地域商品等や寄付として交換できる。）』への参加者を増やす。
- ②自治体のエビデンスに基づく保健指導政策立案を強化するために、健診、医療レセプト、及び介護保険データと都市データの大規模データベースを基に、「課題及び要因発見」「課題解決のための施策候補提示」「実施された施策効果評価」の 3 つのエンジンから構成される AI を開発し、保健師が直感的に使いやすいユーザーインターフェイスにより実証することを目指す。



【主な質疑】

Q コミュニティバスは稼働台数と、料金は。

A コミュニティバスは、1 台あたり約 1000 万円。6 台体制で、30 分おきに運行している。乗車料金は 1 回 100 円。小学生以下は 50 円、1 日乗り放題なら 200 円である。

Q コミュニティバス事業に対する市の持ち出しは。

A 特別交付税の対象になっているので、市の持ち出しは791万円程度である。

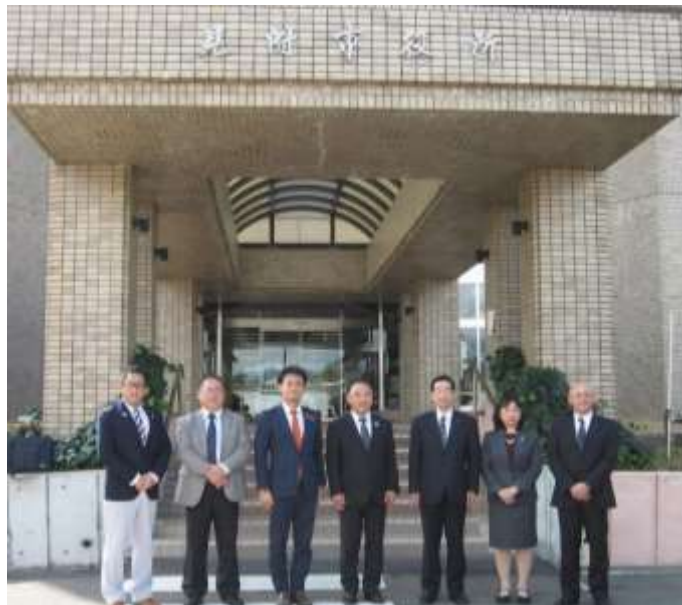
Q 若者などへの住み替えに対する補助の内容は。

A 市外から移ってきた人には新築の場合50万円、中古住宅なら30万円の補助をしている。また、立地適正化計画として居住誘導地域（区域）に移ってきた場合には、税を減免する優遇措置も検討中である。

Q デマンドタクシー事業に対する予算と市の持ち出しはどの程度か。

A 予算は435万円であり、市の負担は約70万円となっている。

また、乗り合い利用者は300円の負担でタクシーに乗ることができる。



【新潟県 十日町市】

[市制施行] 平成 17 年 4 月 1 日(合併による)

[人 口] 53,448 人(平成 30 年 7 月末日現在)

[面 積] 590.39 平方キロメートル

[概 要]

十日町市は新潟県南部と長野県の県境に位置し、市の中央部には信濃川が南北に流れ、雄大な河岸段丘が形成されている。西部中山間地域では、棚田などにより農山村の美しい景観を呈し、最南部には上信越高原国立公園の一角があり、標高 2000 メートル級の山岳地帯となっている。

温泉や溪谷美などの豊かな自然環境、大地の芸術祭・石彫シンポジウムで制作されたアート作品の芸術的要素などをまちづくりに積極的に活用し、交流人口の拡大を進めている。

高度成長期にはきもの産業を主産業として栄えてきたが、生活様式の変化から出荷額は減少している。一方、情報化社会の進展を基盤とするソフト産業の拡大や、特用林産物であるきのこの栽培、農山村を活かしたグリーンツーリズムへの対応、構造改革特区を活用したどぶろくの製造など多様な活動を展開している。

【調査項目】

1. 複合化施設・十日町小学校 について

- (1) 十日町小学校の複合化施設整備に至る経緯と予算規模
- (2) 複合化施設の管理・運営の体制
- (3) 学校教育、児童・地域住民への影響と効果
- (4) 通常の児童と障がいのある児童等が混在する中での防犯・防災対策
- (5) 複合化施設に対する児童や保護者、地域住民からの意見
- (6) 今後の課題等

【視察内容】

1. 島田十日町小学校長より歓迎のご挨拶をいただき、金子委員長より視察受け入れの謝意をお伝えした。その後、関係職員より説明を受け、「十日町小学校」「ふれあいの丘支援学校」「発達支援センター(愛称 おひさま)」の施設を見学した。

(1) 十日町小学校の複合化施設整備に至る経緯と予算規模

①構造・延床面積、各施設延床面積、敷地・建築面積

- ・校舎 RC造2階建 6,517 m²、プール 25m×13m(屋上)
- ・屋内体育館 SRC造平屋一部2階建 1,111 m²
- ・敷地面積 32,600 m²
- ・建築面積 5,528 m²(校舎 4,262 m² 屋台 1,266 m²)



②建設工事費

- ・総事業費 2,154 百万円

③複合化施設として整備した理由・経緯

- ・共生社会の実現をめざす福祉のまちとして、日常的な交流教育に基づいた共生教育環境の整備と発達支援センターを含む、総合的な子育て支援事業を可能とする教育福祉複合施設の整備は急務の課題であった。



- ・老朽化による十日町小学校改築と、同小学校内に設置されていた県立小出特別支援学校ふれあいの丘分校を、市立に移管し一体的に整備することは、市のめざす福祉のまちとしての方向性と合致したため実現した。

④児童生徒数および学級数(H26. 4. 1 現在、特別支援学級は 5. 1 現在)

- ・十日町小学校

(児童生徒数計 298 人/特支 7 人・学級数 普通 12/特支 2)

- ・ふれあいの丘支援学校

(小学部児童数計 13 人/学級数 4+1[重複]・中学部生徒数計 16 人/学級数 4)

(2) 複合化施設の管理・運営の体制

- ・設置者が市(市長)である点で三施設は共通している。
- ・基本的に全館内共用空間であるが、小学校部分は十日町小学校長が管理者である。
- ・共用空間については十日町小学校の管理下にあるものが多く、日常的な管理点検は小学校職員が行っている。
- ・施設及び周辺環境の保守営繕については、十日町小学校に配置されている管理員 1 人が行っている。
- ・光熱水費、電話代等は、三施設がそれぞれの市予算で執行されている。



(3) 学校教育、児童・地域住民への影響と効果

- ・休み時間には、両校児童生徒が一緒に遊ぶ姿が当たり前のように見られ、築き上げてきた関係を物語っている。
- ・周辺環境整備は完了し、両校の共有する教育理念をさらに磨き上げ、共生社会の実現を視野に入れた新たな一歩として踏み出している。
- ・施設開設後、全職員の共生教育への思いは高まりを見せており、三施設の職員が理想の実現に向けて力を合わせ共生教育を行っていくという決意が明確に現れるようになってきている。

(4) 通常の児童と障がいのある児童等が混在する中での防犯・防災対策

- ・十日町小学校児童の登校時刻とふれあいの丘支援学校児童生徒の登校時刻が異なるため、児童玄関の解錠は十日町小学校で、また、両校児童生徒登校後に施錠としている。
- ・発達支援センター入り口と十日町小学校・ふれあいの丘支援学校職員入り口は、通常施錠とし、カメラ付きのインターホンを設置して、来校者の管理を行っている。
- ・年間4回の三施設合同避難訓練を行い、地震・火災・不審者・防火扉シャッター作動の訓練を全職員・全児童生徒・来所者で行っている。



(5) 複合化施設に対する児童や保護者、地域住民からの意見

- ・一般市民、有識者、PTA、学校職員からなる校舎改築整備促進委員会を母体とし「学校づくり委員会」「新校舎建設財務委員会」からの要望を聴取する機会を設けると共に、行政当局と学校づくり委員会、学校関係者合同の校舎改築検討委員会では、首都大学東京副学長の上野淳教授から設計のアドバイスをいただいている。

(6) 今後の課題等

- ・小規模化する小学校と中学校を一体化して整備することを検討している。
- ・他の施設との複合化については、今のところ考えてないが、将来的には公民館などとの複合化も考慮している。



【主な質疑】

Q 効率的に施設が作られていると思うが、専門家が関わったのか。

A いろんなアイデアを子供達も含めて自由に出し合った。また、首都大学東京の上野先生との出会いが大きかった。

Q 防犯対策について、年4回の3施設合同訓練を行っているそうだが、その内容は。

A 今年は3回の予定であり、火災を想定した訓練、地震を想定した訓練、引き渡し訓練などを行っている。

Q 特別支援学校の中学部の生徒と市内中学校との交流の内容は。

A 交流については、小学校と併設しているので、小学校との交流がメインだったが、今後、十日町小学校を卒業した子供達の通う中学校との交流まで広げていこうと考えている。

Q 会計区分について、具体的にどんな対応をされているのか。

A 基本的にはエリアを担当するところが請求先となっている。また、今年で6年目になることから、施設的にも修繕が必要となってきたときには、細かな部分でルールを作りながら運営している。

Q 放課後など学校外での交流はあるのか。

A 十日町小学校区の児童は数人しかいない。各地元で元の小学校区があるわけだが、なかなか日中帰って放課後に子供の交流というのは難しいのが現状である。

Q 市民の声はどのような意見が寄せられているか。

A 特に出てはいない。理由は、保護者の声が寄せられて出来た施設なので、そのことによると考えている。

日常的に様々な方にオープンにしているので見に来てほしいと考えており、施設は県内では一番であり、日本でも一番だと思っている。



以上が視察の概要であり、報告いたします。